J

インテグレーテッドオーディオシステム

ISX-803

Restio

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（i ～ iii ページ）を必ずお読みください。

■製品を正しく安全にお使いいただたくために、ご使用前に本書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
■保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「〜しないでください」という禁止を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
● 異常なにおいや音がする。
● 異常に高温になる。
● 内部に水や異物が混入した。● 煙が出る。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



電源コードを傷つけない。
● 重いものを上に載せない。
● ステープルで止めない。● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。
● 無理な力を加えない。
芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ずAC100V （50/60Hz）の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右10cm、上15cm、背面2.5cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離して使用する。

本機が発生する電波により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。

電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

使用上の注意



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。



CD挿入口や、放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード



本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。

本体の⏻ボタンでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池



電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池は幼児の手の届かない所に保管する。

口に入れたりすると危険です。



指定以外の電池は使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意



再生の前には、音量（ボリューム）を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



ブラウン管を使用したディスプレイから離して設置する。
色むらが起きることがあります。



外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。



ＣＤ挿入口には手を入れない。
本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因になります。



ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。
ディスクは、機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因になります。



レーザー光源をのぞき込まない。
レーザー光が目に当たると、視覚障害の原因になります。

お手入れ



お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。



薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。柔らかい布で乾拭きするか、汚れがひどいときは、水を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。

目次

各部名称とその機能 2
時計を設定する 5
「DTA CONTROLLER」をインストールする 6
CD、USB の音楽を聴く 7
Bluetooth 機器の音楽を聴く 10
ラジオを聴く 13
外部機器の音楽を聴く 14
アラーム機能を使う 15
スリープタイマーを使う 19
音質を調整する（リモコンのみ） 19
前面ディスプレイの明るさを調節する 19
故障かな？と思ったら 20
ディスクおよび USB 機器について 24
主な仕様 25

本機でできること

- オーディオ / データ CD、USB 機器（USB メモリー）の再生、AUX を使った外部機器の再生、FM ラジオの受信ができます。
- *Bluetooth*（ブルートゥース） による無線接続でクリアな音声を楽しむことができます。さらに NFC を使えば、ワンタッチでペアリングができます。
- お好みの音楽やビープ音を使ったアラーム（目覚まし）機能が利用できます。設定時刻になると、設定した音楽がお好みの音量で流れ、快適な目覚めを提供します（IntelliAlarm（インテリアラーム） 機能）（☞ P. 15）。
- お好みの FM ラジオ局を 5 局まで、簡単に登録 / 呼出できます。
- 3 バンド（低音 / 中音 / 高音）イコライザーを搭載し、お好みの音質で音楽を楽しめます。
- デザインにマッチした 2 種類の時計（短針表示付き）を表示できます。

◆ 本書について

- 本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、本体の操作を記載しています。
- 本書で使用されている記号

ご注意 使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

知っておくと便利な補足情報が記載されています。

付属品

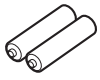
電源コード



リモコン



単 3 乾電池 2 本



FM アンテナ



USB キャップ

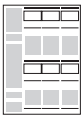


ご注意
USB キャップは、お子様が飲み込まないよう、お子様の手の届かないところに保管してください。

取扱説明書（本書）



組み立てガイド

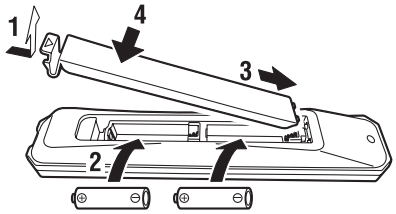


取付金具
ポール
ベース
転倒防止用金具
ケーブル押さえ
ネジセット

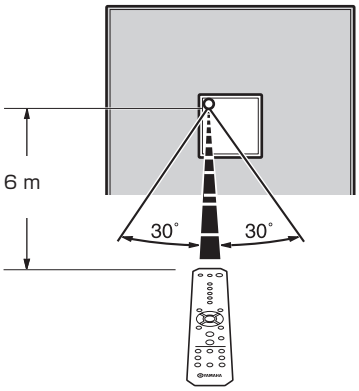
ご注意
スタンドの組み立てに使用します。組み立て方法は別冊の「組み立てガイド」をご覧ください。

リモコンを使用する

乾電池を正しい向き（＋と－）でリモコンに入れてください。

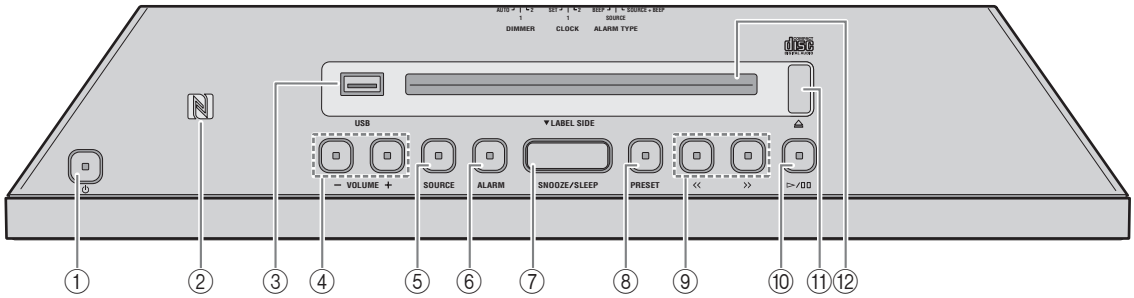


本体前面のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



各部名称とその機能

上面



① ⏻ (電源)
電源オン / スタンバイを切り替えます。前面の時計は、スタンバイ時でも表示されます。

- 本体の⏻を 3 秒以上押し続けると、エコスタンバイに切り替わります。その場合は、前面ディスプレイの表示が消え、電力の消費を抑えることができます。エコスタンバイを解除するには、再度本体の⏻を押します。
- スタンバイおよびエコスタンバイ時でもアラーム機能は動作します。

② NFC マーク
NFC テクノロジーを使った、かんたんペアリングが行なえます。

③ USB ポート
USB 機器を接続します（☞ P. 9）。

④ VOLUME (ボリューム) − / +
音量を調節します。

⑤ SOURCE (ソース)
再生するソースを切り替えます。

⑥ ALARM (アラーム)
アラームのオン / オフや、アラームの各種設定を行ないます（☞ P. 16, 17）。

⑦ SNOOZE (スヌーズ)/SLEEP (スリープ)
スリープタイマーの設定や、アラームのスヌーズ機能を操作します（☞ P. 17, 19）。

⑧ PRESET (プリセット)
ラジオ局の登録 / 呼出、再生フォルダーの切り替え（データ CD、USB 機器再生時）などを行ないます。

⑨ ⏮/⏭
再生するトラックやファイルの切り替え、ラジオのチューニングなどを行ないます。
曲の再生中に長押しすると、早戻し / 早送りが行なえます。

⑩ ⏵/⏸
曲の再生 / 一時停止などを行ないます。

⑪ ⏏
CD を取り出します（☞ P. 7, 8）。

⑫ CD 挿入口
CD を挿入します（☞ P. 7, 8）。

◆ オートスタンバイについて

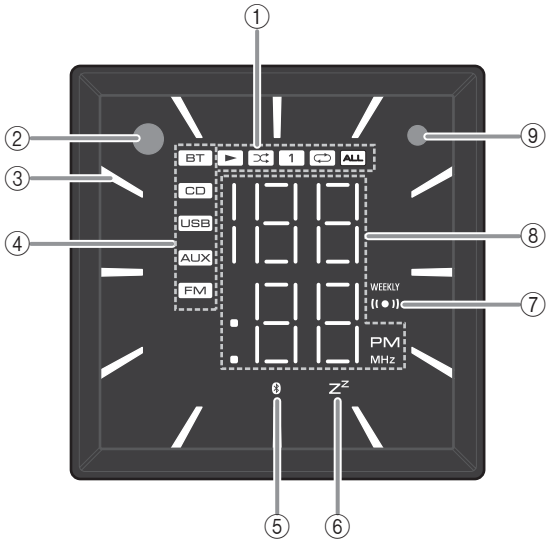
- オートスタンバイによって、本機は電源オンのときに、以下の通り動作します（初期設定 ）。
  - − CD/USB で再生停止されている場合や、チューナーや外部接続機器の入力が無かったり、ごく小音量での再生が一定時間（約 20 分間）続いた場合、本機は自動的にスタンバイになります。
  - − 何も操作しない状態が 8 時間以上続くと、本機は自動的にスタンバイになります。
- オートスタンバイを有効 / 無効にする

1 本機の⏻を押しながら、電源コードをコンセントに差し込む。

2 ⏻を押し続ける。

オートスタンバイが切替わり、以下のインジケーターが点滅します。
- − オートスタンバイを有効にしたとき：前面ディスプレイの ▶ 🔀 1 🔁 ALL および上面の⏻、**ALARM (アラーム)**、**PRESET (プリセット)** ボタンが3秒間点滅します。
- − オートスタンバイを無効にしたとき：前面ディスプレイの ▶ のみが 3 秒間点滅します。

前面ディスプレイ



①プレイ / シャッフル / リピートインジケーター
再生状態を表示します（☞ P. 7, 9）。

②リモコン信号受光部

③クロックインジケーター
時計の短針を表示します（☞ P. 5）。

④ソースインジケーター
選択中のソースを表示します。

⑤*Bluetooth*（ブルートゥース）インジケーター
Bluetooth 接続中に点灯します（☞ P. 10, 12）。

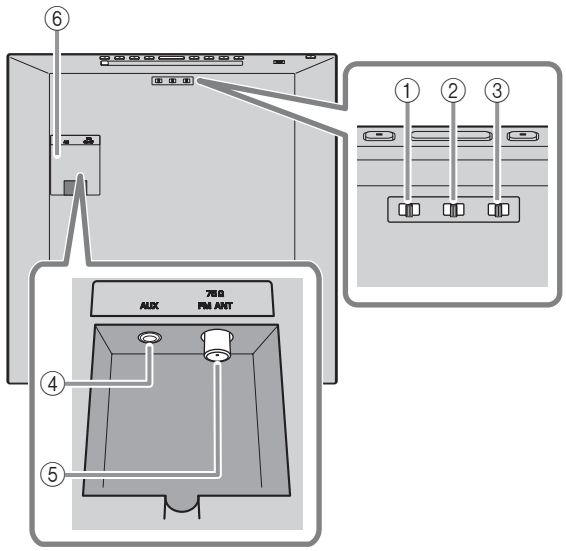
⑥スリープインジケーター
スリープタイマー（☞ P. 19）をオンにすると点灯します。

⑦アラームインジケーター
アラーム機能（☞ P. 15）をオンにすると点灯します。
Weekly Alarm（ウィークリーアラーム）をオンにすると、ウィークリーアラームインジケーター（WEEKLY）も点灯します。

⑧多機能インジケーター
時計の時刻、再生中のトラック番号、ラジオの周波数など、さまざまな情報を表示します。

⑨照度センサー
周囲の明るさを感知します。センサーが隠れないようにしてください。

背面



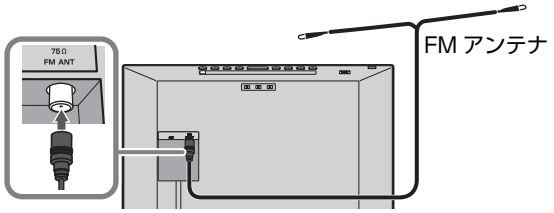
①ALARM TYPE（アラームタイプ）スイッチ
アラームタイプを切り替えます（☞ P. 16）。

②CLOCK（クロック）スイッチ
表示する時計の種類の切り替えや時刻設定を行ないます（☞ P. 5）。

③DIMMER（ディマー）スイッチ
前面ディスプレイの明るさを調節します（☞ P. 19）。

④AUX
外部機器を接続します。

⑤FM アンテナ端子
付属の FM アンテナまたは FM 屋外アンテナを接続します。



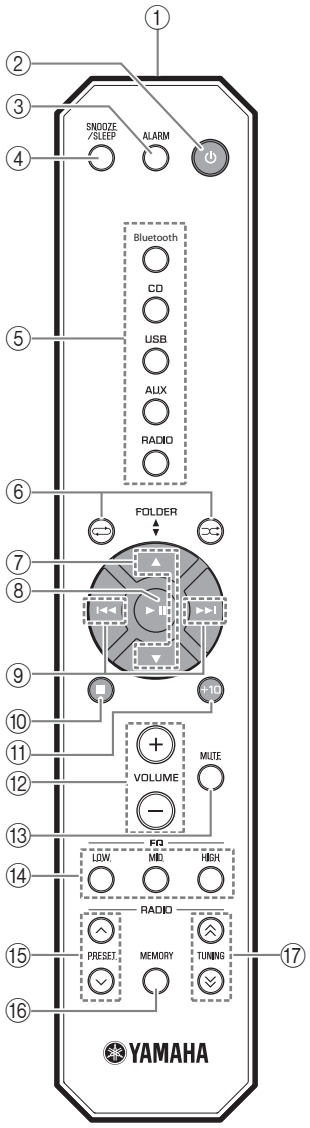
ご注意

- アンテナはしっかりと張ってください。受信状態が悪い場合は、アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。
- 付属のアンテナの代わりに市販の屋外アンテナを使用すると受信状態が良くなる場合があります。

⑥端子カバー
AUX への外部機器の接続、FM アンテナの接続は、端子カバーを外してから行なってください。

外部アンテナや外部機器のケーブルをスタンドのポールに通す場合は、組み立てガイドをご参照ください。

リモコン



① **リモコン信号送信部**

② **⏻（電源）**
電源オン / スタンバイを切り替えます。

③ **ALARM（アラーム）**
アラーム機能のオン / オフを切り替えます。

④ **SNOOZE（スヌーズ）/SLEEP（スリープ）**
スリープタイマーの設定や、アラームのスヌーズ機能を操作します（☞ P. 17, 19）。

⑤ **ソースボタン**
再生するソースを切り替えます。

⑥ **🔁（リピート）/🔀（シャッフル）**
オーディオ / データ CD、USB 機器をリピート / シャッフル再生します（☞ P. 7, 9）。

⑦ **▲/▼**
データ CD や USB 機器の再生時、再生するフォルダーを切り替えます。

⑧ **►II**
再生 / 一時停止をします。また設定を確定します。

⑨ **I◄◄/►►I**
曲をスキップします。
長押しすると、早戻し / 早送りが行なえます。

⑩ **■**
再生停止します。

⑪ **+10**
10 曲スキップします。

⑫ **VOLUME（ボリューム）+/ −**
音量を調節します。

⑬ **MUTE（ミュート）**
消音 / 消音の解除を行ないます。

⑭ **EQ LOW（ロー）/MID（ミッド）/HIGH（ハイ）**
低音、中音、高音の音質を調節します（☞ P. 19）。

⑮ **PRESET（プリセット）∧/∨**
登録されたラジオ局を呼び出します。

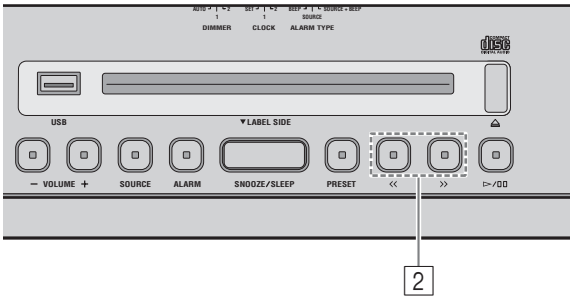
⑯ **MEMORY（メモリー）**
ラジオ局を登録します（☞ P. 13）。

⑰ **TUNING（チューニング）≪/≫**
ラジオをチューニングします。

時計を設定する

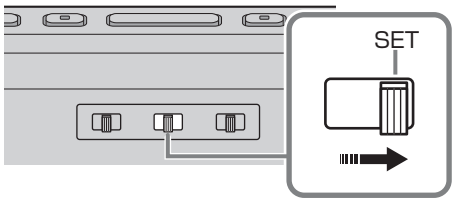
時刻を合わせる

上面

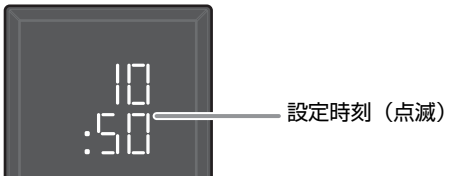


1 背面の **CLOCK**（クロック）スイッチを「SET」にする。

背面



2 **<</>>** を押して時刻を変更する。



3 背面の **CLOCK**（クロック）スイッチを「CLOCK1」または「CLOCK2」にして、設定を終了する。

- ステップ 2 で **SNOOZE/SLEEP**（スヌーズ/スリープ）を押すと、時間表示（12 時間 /24 時間）を選択できます。
- 「PM」の表示は 12 時間表示を選択した場合にのみ表示されます。

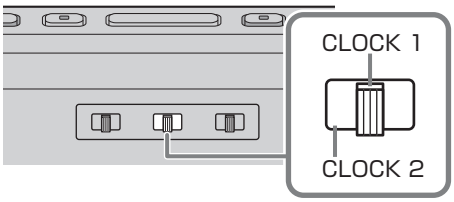
ご注意

本機に 1 週間以上電力が供給されなかった場合、時計はリセットされます。

時計の種類を切り替える

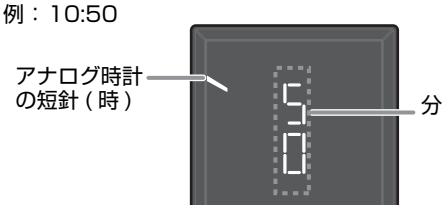
背面の **CLOCK**（クロック）スイッチで、時計の種類を切り替えます。

背面



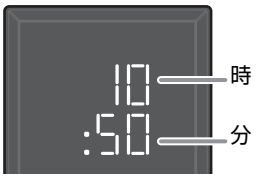
◆ 時計表示モード 1（CLOCK1）

例：10:50



◆ 時計表示モード 2（CLOCK2）

例：10:50



「DTA CONTROLLER」をインストールする

「DTA CONTROLLER」はスマートフォン / タブレット用コントロールアプリです。お使いのスマートフォンやタブレットにインストールすると、本機をより便利に使用できます。

主な機能

- 電源オン / スタンバイの切り替え
- 音量の調節
- アラーム機能（IntelliAlarm）の設定（☞ P. 18）
- iPhone 内の音楽を再生

本機とお使いの端末を *Bluetooth* で接続することが必要です（☞ P. 10）。

Available on the App Store

http://itunes.com/app/dtacontroller

Google Play ™

https://play.google.com/store/apps/details?id=com.yamaha.av.dtacontroller

ご注意

アクセスできない場合は、App Store または Google Play にて「DTA CONTROLLER」を検索してください。

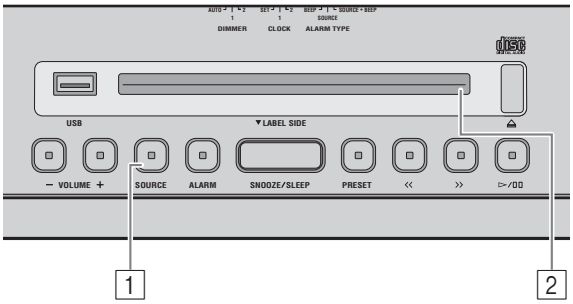
CD、USB の音楽を聴く

CD/USB 機器の再生時、本機は次のように動作します。
- 再生中の CD/USB 機器を停止した場合、次回は再生していた曲の始めから再生されます。
- 再生停止中にリモコンの■を押すと、次回再生時以下のように再生されます。
  – オーディオ CD を再生しているとき：　CD の最初から再生
  – データ CD、USB 機器を再生しているとき：　前回停止した曲があるフォルダーの最初の曲から再生
- CD/USB 機器の再生を停止した後、何も操作されず 20 分以上再生されない状態が続くと、自動的にスタンバイになります。

再生できるディスク、ファイルについては、「ディスクおよび USB 機器について」（☞ P. 24）を参照してください。

オーディオ CD を再生する

上面

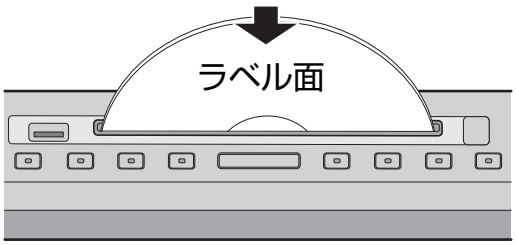


1 SOURCE（ソース）を押して再生ソースを CD に切り替える。

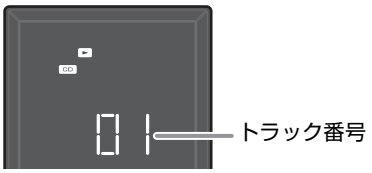
リモコンの場合
CD を押します。

CD が既に挿入されている場合、再生が始まります。

2 ラベル面を手前にして CD 挿入口にオーディオ CD を入れる。



自動的に再生が始まります。再生開始時やスキップ時は、トラック番号が数秒間表示されます。



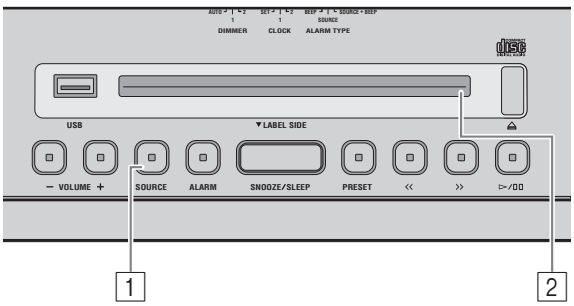
オーディオ CD の再生中は、以下のキーで各種操作が行なえます。

操作ボタン		動作
上面	▷/▯▯	曲の再生 / 一時停止
	⏮/⏭	曲のスキップ 早戻し / 早送り（長押し）
	⏏	CD の取り出し
リモコン	▶▮▮	曲の再生 / 一時停止
	⏮/⏭	曲のスキップ 早戻し / 早送り（長押し）
	■	再生停止
	🔁	リピート再生の設定 （☞ P. 9）。
	🔀	シャッフル再生の設定 （☞ P. 9）。
	+10	10 曲スキップします。

ご注意
エコスタンバイ（☞ P. 2）のときは、CD の挿入 / 取り出しはできません。

データ CD を再生する

上面

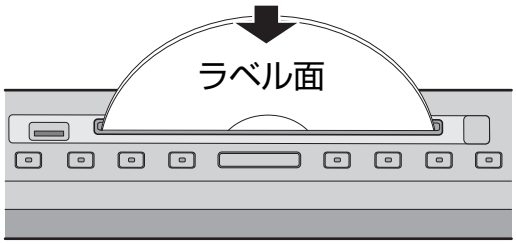


1 SOURCE（ソース）を押して再生ソースを CD に切り替える。

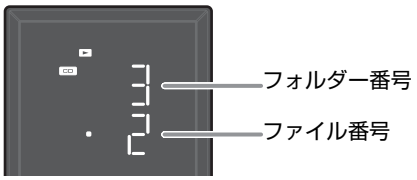
リモコンの場合
CD を押します。

CD が既に挿入されている場合、再生が始まります。

2 ラベル面を手前にして CD 挿入口にデータ CD を挿入する。



自動的に再生が始まります。再生開始時やスキップ時は、フォルダー / ファイル番号が数秒間表示されます。

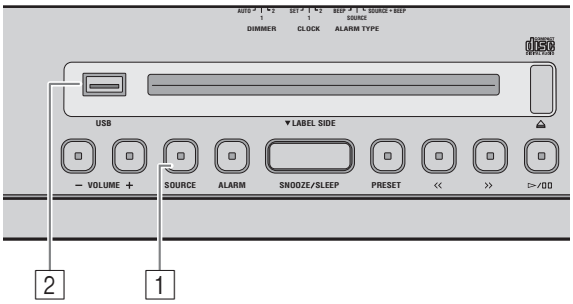


データ CD の再生中は、以下のキーで各種操作が行なえます。

操作ボタン		動作
上面	▷/▯▯	曲の再生 / 一時停止
	≪/≫	曲のスキップ 早戻し / 早送り（長押し）
	PRESET（プリセット）	再生するフォルダの変更
	⏏	CD の取り出し
リモコン	▶▮▮	曲の再生 / 一時停止
	⏮/⏭	曲のスキップ 早戻し / 早送り（長押し）
	■	再生停止
	▲/▼	再生するフォルダの変更
	🔁	リピート再生の設定 (☞ P. 9)。
	🔀	シャッフル再生の設定 (☞ P. 9)。
	+10	同フォルダ内で 10 曲スキップします。

USB 機器を再生する

上面



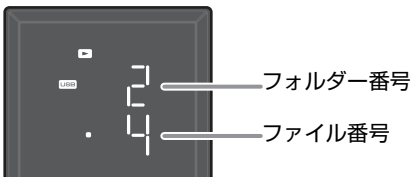
1 SOURCE（ソース）を押して再生ソースを USB に切り替える。

リモコンの場合
USB を押します。

USB 機器が既に接続されている場合、再生が始まります。

2 USB ポートに USB 機器を接続する。

自動的に再生が始まります。再生開始時やスキップ時は、フォルダー / ファイル番号が数秒間表示されます。



USB 機器の再生中は、以下のキーで各種操作が行なえます。

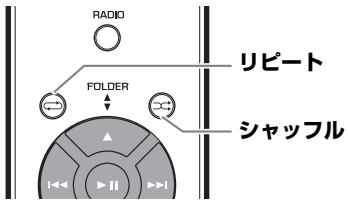
操作ボタン		動作
上面	▷/▯▯	曲の再生 / 一時停止
	≪/≫	曲のスキップ 早戻し / 早送り（長押し）
	PRESET（プリセット）	再生するフォルダの変更
リモコン	►II	曲の再生 / 一時停止
	I◄◄/►►I	曲のスキップ 早戻し / 早送り（長押し）
	■	再生停止
	▲/▼	再生するフォルダの変更
	⟲	リピート再生の設定 (☞ P. 9)。
	⤮	シャッフル再生の設定 (☞ P. 9)。
	+10	同フォルダ内で 10 曲スキップします。

USB 機器を取り外すときは再生を停止してください。

リピート / シャッフル再生する

再生状態は前面ディスプレイのプレイ / シャッフル / リピートインジケーターで確認できます。

リモコン



選択された再生ソースがフォルダーを含んでいる場合、フォルダー単位のリピート / シャッフルも選択できます。

◆ リピート再生

リモコンの⟲（リピート）を繰り返し押して、以下から再生方法を選択してください。

1 ⟲: 1 曲

⟲: フォルダー内の全曲（データ CD/USB 機器のみ）

⟲ ALL: 全曲

非表示 : リピートオフ

◆ シャッフル再生

リモコンの⤮（シャッフル）を繰り返し押して、以下から再生方法を選択してください。

⤮: フォルダー内の全曲（データ CD/USB 機器のみ）

⤮ ALL: 全曲

非表示 : シャッフルオフ

Bluetooth 機器の音楽を聴く

本機は *Bluetooth* 機能を搭載しています。*Bluetooth* 機器（スマートフォン、デジタル音楽プレーヤーなど）の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。ご使用の際には、お使いの *Bluetooth* 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

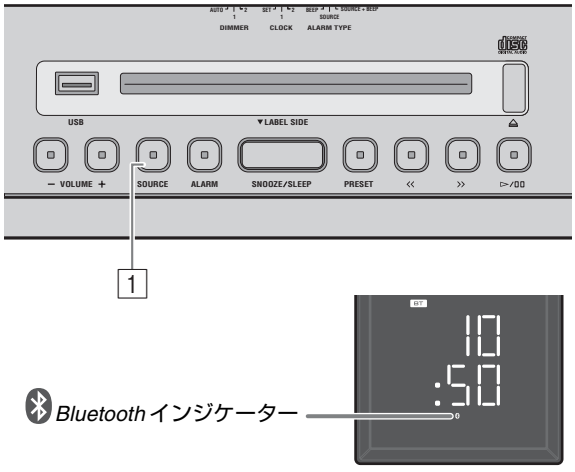
本機と *Bluetooth* 機器をペアリングする

ペアリングとは、通信を行なう機器（以下「接続機器」）を本機に登録する操作です。*Bluetooth* 機器を初めて本機と *Bluetooth* 接続するときやペアリング情報が削除されたときには、ペアリングを行なう必要があります。一度ペアリングが完了すると、以降は *Bluetooth* 接続を切断しても簡単に再接続できます。ペアリングできない場合は、「故障かな？と思ったら」の「*Bluetooth*」の項（☞ P. 22）を参照してください。

- 本機は最大 8 台の接続機器とペアリングできます。9 台目の接続機器とのペアリングが成功すると、最後に接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
- 本機が別の機器と *Bluetooth* 接続している場合は、本体の **SOURCE** またはリモコンの **Bluetooth** を長押しして *Bluetooth* 接続を切断してからペアリングを行なってください。

◆ iPod touch/iPhone/iPad の場合

上面



1 SOURCE を押して再生ソースを *Bluetooth* に切り替える。

リモコンの場合
Bluetooth を押します。

2 iPod touch/iPhone/iPad の [設定] → [Bluetooth] をオンにする。

[デバイス] に *Bluetooth* 接続リストが表示されます。

（お使いの iPod touch/iPhone/iPad によっては、手順や表示が異なる場合があります。）

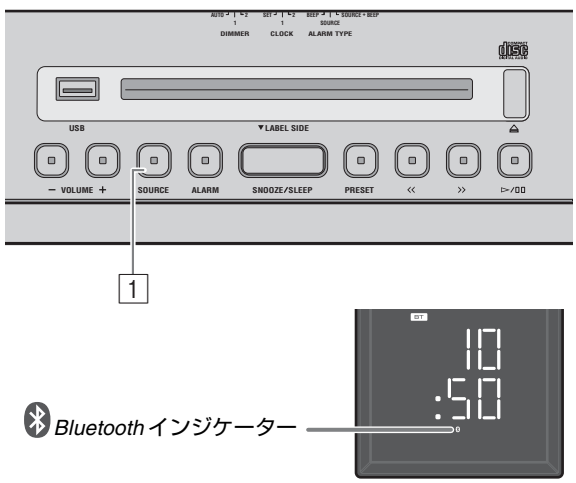
3 接続機器の *Bluetooth* 接続リストから本機（ISX-803 Yamaha）を選ぶ。

ペアリングが完了すると、iPod touch/iPhone/iPad に「接続されました」と表示されます。

本機の前面ディスプレイの *Bluetooth* インジケーターが点灯します。

◆ iPod touch/iPhone/iPad 以外の場合

上面



1 SOURCE を押して再生ソースを *Bluetooth* に切り替える。

リモコンの場合
Bluetooth を押します。

2 接続機器で *Bluetooth* のペアリングを行なう。

詳しくは接続機器の取扱説明書を参照してください。

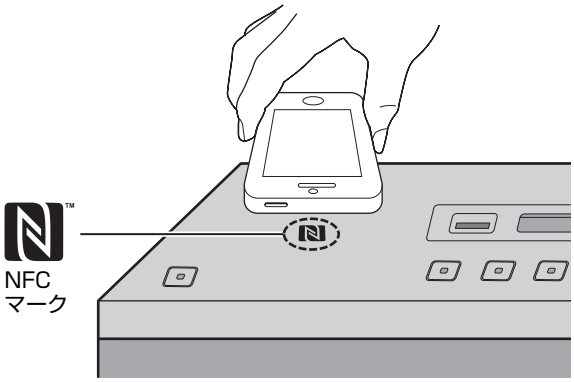
3 接続機器の *Bluetooth* 接続リストから本機（ISX-803 Yamaha）を選ぶ。

ペアリングが完了すると、本機の前面ディスプレイの *Bluetooth* インジケーターが約 1 秒間点灯します。

パスキーの入力を要求されたら、数字で「0000」を入力してください。

◆ かんたんペアリング

NFC（近距離無線通信）機能搭載スマートフォンなら、本機の NFC マークにスマートフォンをかざすだけでかんたんにペアリングができます（あらかじめ本機を電源オンにし、スマートフォンの NFC 機能をオンにしてください）。



1 ⏻ ボタンを押して本機を電源オンにする。

2 NFC マークにスマートフォンをかざす。

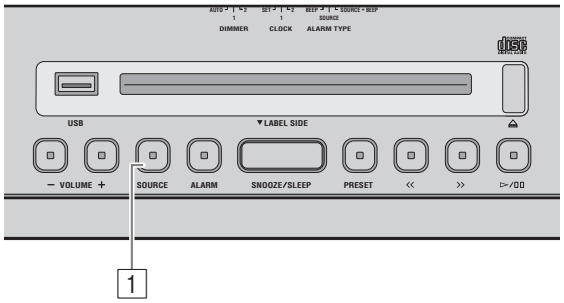
3 スマートフォンでペアリング操作をする（詳しくはスマートフォンの取扱説明書をご覧ください）。

本機はスマートフォンに「ISX-803 Yamaha」と表示されます。

- パスキーの入力を要求された場合は、数字で「**0000**」を入力します。
- 接続がうまくいかないときは、スマートフォンを NFC マークの上でゆっくり動かしてください。
- スマートフォンにケースが装着されている場合、ケースを外してください。

Bluetooth 機器を再生する

上面



1 SOURCE（ソース）を押して再生ソースを *Bluetooth*（ブルートゥース）に切り替える。

リモコンの場合
Bluetooth を押します。

2 本機と接続機器を *Bluetooth* 接続する。

3 接続機器の音楽を再生する。

ご注意

本機の音量設定を大きくしすぎないようにしてください。音量は接続機器で調節することをおすすめします。

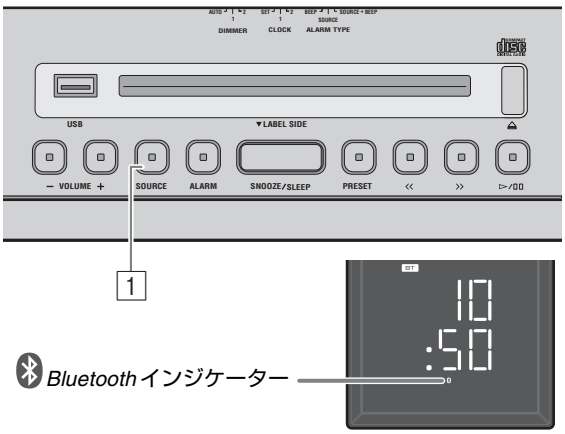
- 本機がスタンバイのときに接続機器から *Bluetooth* 接続して音楽を再生すると、本機は自動的に電源オンになります。
- 再生ソースが *Bluetooth* のときに接続機器から *Bluetooth* 接続を切断すると、本機は自動的にスタンバイになります。
- 再生ソースが *Bluetooth* のとき、*Bluetooth* 接続がなく操作もされない状態が 20 分続くと、本機は自動的にスタンバイになります。

ペアリング済みの機器を *Bluetooth* 接続する

ペアリングが完了した *Bluetooth*（ブルートゥース）機器は簡単に接続できます。

◆ 本機から接続する

上面



1 **SOURCE（ソース）を押して再生ソースを *Bluetooth* に切り替える。**

リモコンの場合
Bluetooth を押します。

前面ディスプレイの *Bluetooth* インジケーターが点滅し、本機が最後に接続した接続機器を探して接続します（あらかじめ接続機器の *Bluetooth* 設定をオンにしておいてください）。

Bluetooth 接続が完了すると、*Bluetooth* インジケーターが点灯します。

ご注意

本機はすべての *Bluetooth* 機器との接続を保証するものではありません。

◆ 接続機器から接続する

1 **接続機器の *Bluetooth* 設定で、*Bluetooth* をオンにする。**

2 **接続機器の *Bluetooth* 接続リストから本機（ISX-803 Yamaha）を選ぶ。**

Bluetooth 接続が完了し、本機の前面ディスプレイに *Bluetooth* インジケーターが点灯します。

◆ NFC を使って接続する

ペアリング済みの NFC 機能搭載スマートフォンの場合、NFC マークにかざすと接続されます。

ご注意

本機がエコスタンバイ時は、接続機器からの *Bluetooth* 接続はできません。本機を電源オンにしてください。

Bluetooth 接続を切断する

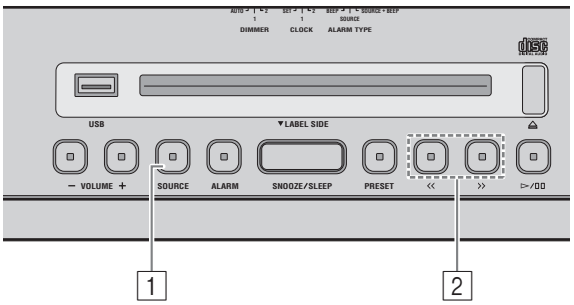
Bluetooth（ブルートゥース）接続中に以下のいずれかの操作を行なうと、*Bluetooth* 接続が切断されます。

- 本体の **SOURCE（ソース）** またはリモコンの **Bluetooth** を長押しする。
- 本機をスタンバイにする。
- 接続機器の *Bluetooth* 設定をオフにする。
- *Bluetooth* 接続中の NFC 機能搭載スマートフォンを NFC マークにかざす。

ラジオを聴く

放送局を選ぶ

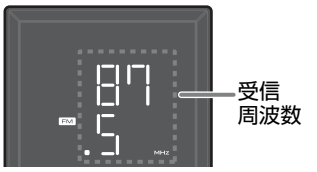
上面



ご注意

手動でチューニングした場合、ラジオの音声はモノラルになります。

1 **SOURCE（ソース）を押して再生ソースを FM に切り替える。**



リモコンの場合

RADIO（ラジオ）を押します。

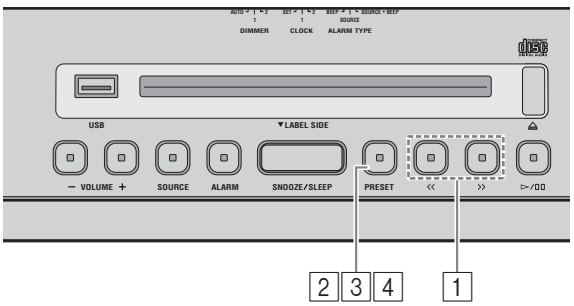
2 **≪/≫を押してチューニングする。**

チューニング方法		操作
上面	自動チューニング	≪/≫の一方を長押しします。
	手動チューニング	≪/≫の一方を繰り返し押します。
リモコン	自動チューニング	TUNING（チューニング）≪/≫の一方を長押しします。
	手動チューニング	TUNING（チューニング）≪/≫の一方を繰り返し押します。

放送局を登録する（プリセット）

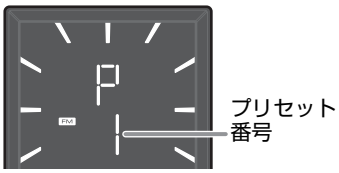
プリセット機能を使って、5 局まで登録できます。

上面



1 **≪/≫を押して登録したい放送局を選ぶ。**

2 **PRESET（プリセット）を長押しする。**



リモコンの場合

MEMORY（メモリー）を長押しします。

3 **PRESET を押して登録したいプリセット番号を選ぶ。**

リモコンの場合

PRESET（プリセット） ∧/∨を押します。

4 **PRESET を長押しして終了する。**

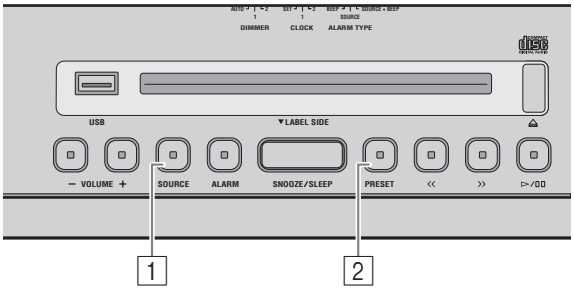
登録が完了します。

リモコンの場合

MEMORY（メモリー）を押します。

登録した放送局を選ぶ（プリセット選局）

上面



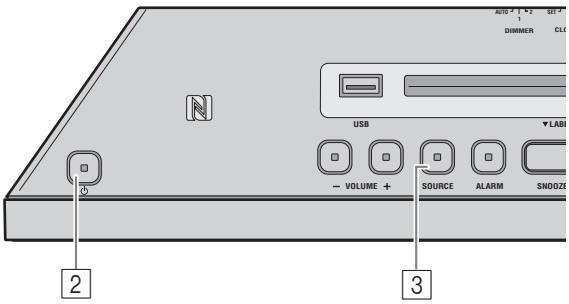
1 **SOURCE（ソース）を押して再生ソースを FM に切り替える。**

2 **PRESET（プリセット）を繰り返し押して、登録した放送局を選ぶ。**

リモコンの場合
PRESET（プリセット） ∧/∨を押します。

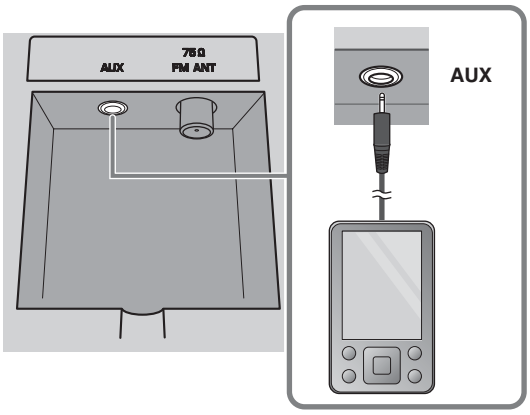
外部機器の音楽を聴く

上面



オーディオケーブルの接続は、本機をスタンバイにし、端子カバーを外してから行なってください。

1 **市販の 3.5 mm ミニプラグケーブルで背面の AUX と外部機器を接続する。**



ご注意
接続する前に本機と外部機器の音量を十分に下げてください。

2 **⏻を押して電源オンにする。**

3 **SOURCE（ソース）を押して再生ソースを AUX にする。**

リモコンの場合
AUX を押します。

4 **接続した外部機器を再生する。**

アラーム機能を使う

本機には、音楽ソースやビープ音（内蔵アラーム音）をさまざまな方法で設定時刻に再生するアラーム機能（IntelliAlarm）が搭載されています。本機のアラーム機能には次の特徴があります。

◆ 3 つのアラームタイプ

音楽と「ピピピ」というビープ音を組み合わせた、3 つのアラームタイプが選択できます。

SOURCE+BEEP	音楽ソースとビープ音を設定時刻に再生します。快適な目覚めを提供するお勧めの設定です。 アラーム時刻の 3 分前：音楽ソースの再生を始め、アラーム時刻に向けて徐々に音量が大きくなります。 アラーム時刻：　　音楽ソースに加え、ビープ音を再生します。
SOURCE	音楽ソースを設定時刻に再生します。小さい音量から再生を始め、徐々に音量が大きくなります。
BEEP	設定した時刻にビープ音を再生します。

◆ さまざまな音楽ソース

オーディオ CD、データ CD、USB 機器またはラジオが選択できます。音楽ソースによって、次のように再生方法を選択できます。

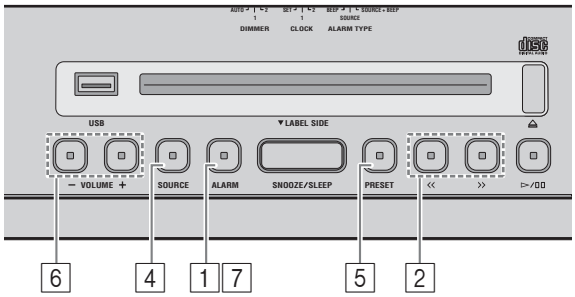
音楽ソース	再生方法	機能
オーディオ CD	曲指定	選択した曲を繰り返し再生します。
	レジューム再生	最後に再生していた曲を再生します。
データ CD/USB	フォルダー	指定選択したフォルダーを繰り返し再生します。
	レジューム再生	最後に再生していた曲を再生します。
FM ラジオ	プリセット局	指定選択したプリセット局がかかります。
	レジューム再生	最後に聴いていた放送局がかかります。

◆ スヌーズ機能

5 分後に繰り返しアラームを再生するスヌーズ機能を使用できます。

アラームの時刻、タイプを設定する

上面

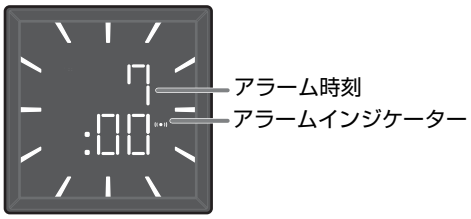


ご注意

アラーム設定の途中でスタンバイにすると設定がキャンセルされます。

1 ALARM（アラーム）を長押しする。

アラームインジケーター（((●))）およびアラーム時刻が点滅します。



2 ⏮/⏭ を押してアラーム時刻を設定する。

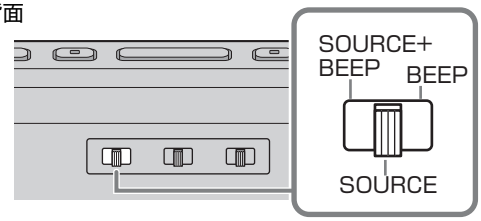
リモコンの場合

⏮/⏭ を押します。

3 背面の ALARM TYPE（アラームタイプ）スイッチでアラームタイプを選ぶ。

アラームタイプの詳細は、P. 15 をご覧ください。

背面



4 （BEEP（ビープ）以外のアラームタイプ選択時）SOURCE（ソース）を押して再生ソースを選択する。

AUX、*Bluetooth*（ブルートゥース）以外のソースが選択できます。

リモコンの場合

USB、**CD**、**RADIO** のいずれかを押して再生ソースを選択します。

ご注意

- CD/USB を選択した場合は、音源（オーディオ / データ CD、USB 機器）を本機に接続 / 挿入してください。
- アラーム時刻に選択された再生ソースが再生できない場合（CD が挿入されていない場合など）は、代わりにビープ音が再生されます。

5 （BEEP（ビープ）以外のアラームタイプ選択時）再生する曲 / フォルダー / 放送局を指定する。

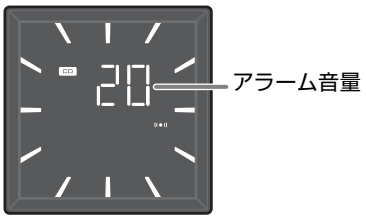
PRESET（プリセット）を押して、再生する曲（オーディオ CD）、フォルダー（データ CD/USB 機器）、放送局（FM）を指定します。

リモコンの場合

PRESET（プリセット） ∧/∨ を押します。

「0」を選択すると、最後に再生した曲（FM の場合は最後に聴いていた放送局）を再生します（レジューム再生）。

6 VOLUME（ボリューム）−/+を押してアラーム音量を設定する。

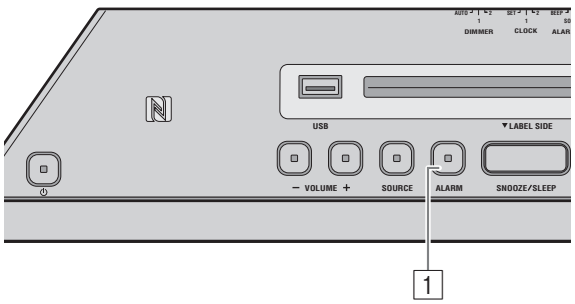


7 ALARM（アラーム）を押して終了する。

アラームが設定され、アラームインジケーター（((●))）が点灯に変わります。

アラーム機能をオン / オフする

上面



1 ALARM（アラーム）を押す。

アラーム機能をオンにすると、アラームインジケーター（((●))）が点灯し、アラーム時刻が数秒間表示されます。もう一度 **ALARM**（アラーム）を押すと、アラームインジケーター（((●))）が消灯し、アラームがオフになります。

アラームモードが Weekly Alarm（ウィークリーアラーム）の場合は、ウィークリーアラームインジケーター（WEEKLY）も点灯 / 消灯します。

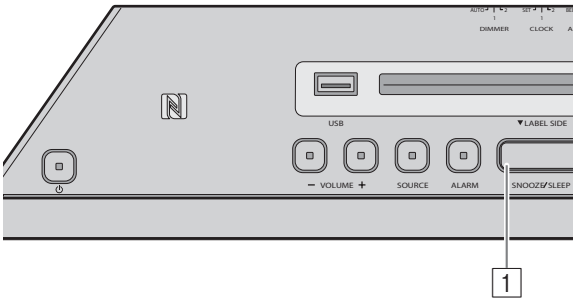
アラームを停止させても、アラーム時刻など設定した内容は保持されます。再度 **ALARM**（アラーム）を押してオンにすれば、前回の設定内容でアラームが再生されます。

アラーム再生中の操作

設定した時刻になると、選択したアラーム音が再生されます。再生中は下記の操作が可能です。

◆ アラームを一時的に止めたい場合（スヌーズ機能）

上面



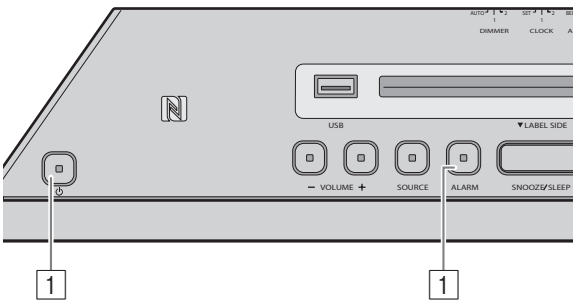
1 SNOOZE/SLEEP（スヌーズ / スリープ）を押す。

スヌーズ機能により、5 分後に再度アラームを再生します。

- アラームタイプが SOURCE（ソース）+BEEP（ビープ）のときは、**SNOOZE/SLEEP**（スヌーズ / スリープ）を一回押すとビープ音を停止し、二回押すと音楽ソースを停止します。音楽ソースが停止されてから 4 分後に再び音楽ソースを徐々に音量を上げながら再生し、さらに 1 分後にビープ音を鳴らします。
- スヌーズ中はアラームインジケーターが点滅します。

◆ アラームを停止したい場合

上面



1 ALARM（アラーム）または⏻を押す。

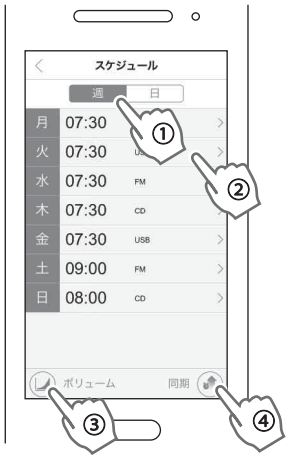
- アラーム音を停止しない場合、60 分後に自動的に停止します。
- アラームを停止させても、アラーム時刻など設定した内容は保持されます。再度 ALARM を押してオンにすれば、前回の設定内容でアラームが再生されます。

Weekly Alarm を設定する

DTA CONTROLLER（☞ P. 6）を利用すれば、曜日ごとに時刻設定ができるアラーム（Weekly Alarm）を使用することができます。始めに DTA CONTROLLER で Weekly Alarm の設定をしてください。

◆ DTA CONTROLLER で Weekly Alarm を設定する

インテリアラーム設定画面



仕様、および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

1 DTA CONTROLLER（コントローラー）内の（インテリアラームアイコン）をタップして、インテリアラーム設定画面を開く。

2 インテリアラーム設定画面で、以下の操作を行なう。

① ［週］（Weekly Alarm）を選択する 。

② 各曜日のアラームを設定する 。

③ アラームの音量やインテリアラームの詳細設定を設定する。

④ ［同期］をタップして設定を本機に転送する 。

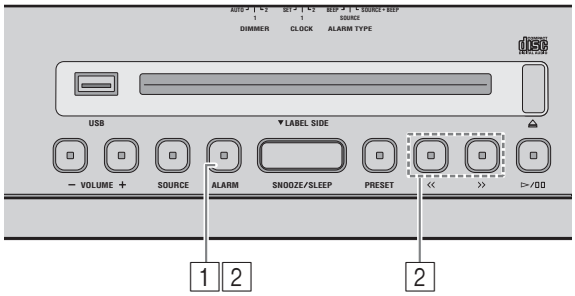
Weekly Alarm 機能がオンになり、本機のアラームインジケーター（ ((●)) ）とウィークリーアラームインジケーター（ WEEKLY ）が点灯します。



◆ 本体で Weekly Alarm を設定する

一度 DTA CONTROLLER（コントローラー）で Weekly Alarm（ウィークリーアラーム）を設定すると、本機のアラーム 設定画面で Weekly Alarm を選べるようになります。

上面



1 ALARM（アラーム）を長押しする。

アラームインジケーター（ ((●)) ）が点滅し、アラームモード選択画面が表示されます。

2 アラームモードを選ぶ。

⟨⟨/⟩⟩ を押してモードを選び、**ALARM** を押して確定します。

リモコンの場合

⏮/⏭ を押してモードを選び、**⏯** を押して確定します。

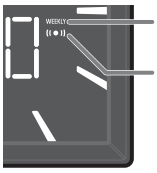


1d（One Day Alarm（ワンデイアラーム）モード）：
指定した時刻に一度だけ鳴るアラーム



7d（Weekly Alarm（ウィークリーアラーム）モード）：
曜日ごとに時刻設定できるアラーム（「DTA CONTROLLER」でのみ設定できます）

Weekly Alarm（ウィークリーアラーム）モードを選ぶと、アラーム設定が完了し、アラームインジケーター（((●))）とウィークリーアラームインジケーター（WEEKLY）が点灯します。



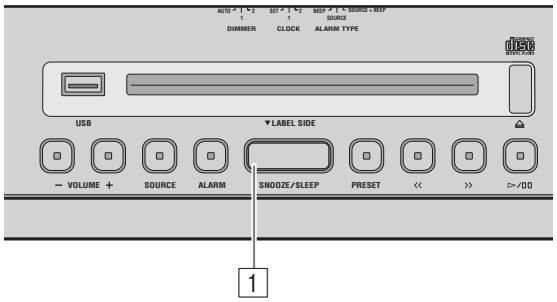
ご注意

Weekly Alarm（ウィークリーアラーム）の曜日設定が全てオフになっている時は Weekly Alarm（ウィークリーアラーム）を選べません。いずれかの曜日をオンにしてください。

スリープタイマーを使う

自動的に本機をスタンバイにします。

上面



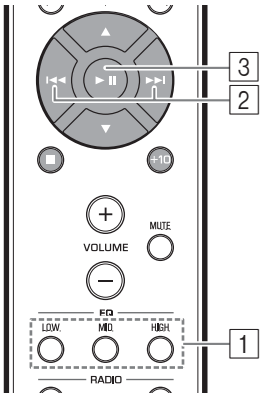
1 SNOOZE/SLEEP を何度か押し、スタンバイになるまでの時間を選ぶ。

スリープタイマーは 30、60、90、120 分から選択できます。時間を選択すると、前面ディスプレイにスリープインジケーター（z²）が表示されます。

スリープタイマーの動作中に **SNOOZE/SLEEP** を押すと、スリープタイマーが解除されます。

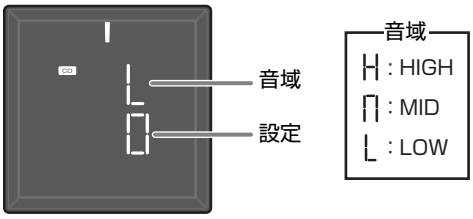
音質を調整する（リモコンのみ）

リモコン



1 再生中にリモコンの EQ LOW/MID/HIGH のいずれかを押す。

調節する音域（低音：LOW、中音：MID、高音：HIGH）を選択できます。



2 ⏮/⏭ を押して音質を調節する。

音域ごとに、− 5 ～ +5 の範囲で調節できます。

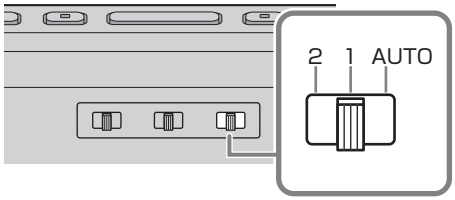
3 ⏯ を押して設定を終了する。

手順 1 で押した EQ ボタンを押して、設定を終了することもできます。

他の音域を調節したい場合は、再度手順 1 に戻り、調節したい音域の EQ ボタンを押してください。

前面ディスプレイの明るさを調節する

背面



1 背面の DIMMER スイッチを切り替える。

AUTO: 周囲に合わせ、自動で明るさを調節します。
1: 明るくします。
2: 暗くします。

ご注意

AUTO に設定した場合は、前面ディスプレイの照度センサー（☞ P. 3）で周囲の明るさを感知します。センサーが隠れないようご注意ください。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、まず下記をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行なっても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイにし、電源コードをコンセントから抜いてから、お買い上げ店または修理ご相談センターまでお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策
本機の電源が入らない。	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをコンセントと本機にしっかりと接続し直してください。
	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	電源コードをコンセントから抜いてください。約 30 秒後に電源を入れ直してください。
スピーカーから音が出ない。	音量が最小または消音に設定されている。	音量を調節してください。
	音楽ソースが正しく選択されていない。	正しい音楽ソースを選択してください。
	オートスタンバイが働いた。	本機を電源オンにし直してください。
音が突然出なくなる。	スリープタイマー（☞ P. 19）を設定している。	本機を電源オンにして再生し直してください。
	オートスタンバイが働いた。	本機を電源オンにし直してください。
音割れ、音の歪み、異音がする。	入力した音楽ソースの音量が大きい。または本機の音量（とくに低音）が大きい。	VOLUME（ボリューム）で音量を下げるか、EQ（☞ P. 19）で低音を調節してください。
本機が正常に動作しない。 **電源オンにしてもすぐにスタンバイになる。**	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに差し、電源オンにしてください。
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。
時刻の設定内容が消えた。	本機への電力供給が 1 週間以上遮断されていた。	電力供給が 1 週間以上遮断されると、時刻設定がリセットされてしまうことがあります。この場合は時刻を再度設定してください（☞ P. 5）。
アラームのソースを設定しても、アラーム時刻にソースが再生されない。	CD または USB が挿入されていない。	CD または USB を挿入してください。
	ALARM（アラーム） TYPE（タイプ） スイッチが BEEP（ビープ）に設定されている。	**ALARM（アラーム） TYPE（タイプ）** スイッチを SOURCE（ソース）、または SOURCE（ソース）+BEEP（ビープ）に設定してください（☞ P. 16）。
時計が点滅していて、操作ができない。	**CLOCK（クロック）** スイッチが SET（セット）になっており、時計設定中の状態になっている。	**CLOCK（クロック）** スイッチを CLOCK1 または CLOCK2 にしてください（☞ P. 5）。
オートスタンバイが機能しない。	外部のノイズを拾う。	本機が携帯電話、無線機器、電子レンジ、蛍光灯などの近くにある場合は、本機を離してください。
前面ディスプレイが暗くなる。	前面ディスプレイの明るさの設定が AUTO（オート）になっている。	明るさの設定を AUTO（オート）以外にしてください。または、照度センサーが隠れないようにしてください。

ディスクの再生

症状	原因	対策
ディスクが挿入できない。	エコスタンバイになっている。	⏻を押して、エコスタンバイ（☞ P. 2）を解除してください。
	既にディスクが挿入されている。	⏏を押してディスクを取り出してください。
特定の機能が動作しない。	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください（☞ P. 24）。
本体またはリモコンの▷/⏸を押しても再生が始まらない（すぐに停止する）。	ディスクが汚れている。	ディスクの汚れを拭きとってください。
	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください（☞ P. 24）。
	本機を気温の低い場所から高い場所に移動したため、レンズ部に露が付いた。	本機を、1 ～ 2 時間ほど放置し、部屋の温度になじませてから、再度操作してください。
ディスクを挿入後、CD インジケーターが 2 回点滅を 3 回繰り返し、ディスクが排出される。	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください（☞ P. 24）。
	ディスクが汚れている、または異物が付着している。	ディスクを取り出し、汚れを拭きとってください。または付着した異物を取り除いてください。
	再生可能なファイルがディスクに入っていない。	再生可能なファイルが入っているディスクを挿入してください（☞ P. 24、25）。
	ディスクが裏返しに挿入されている。	ラベル面を手前にして挿入してください。
ディスクを挿入後、前面ディスプレイに「Err」と表示される。	内部でエラーが発生した。	⏏で CD を取り出してください。

USB 機器の再生

症状	原因	対策
USB 機器内の MP3/WMA ファイルが再生できない。	USB 機器が認識されていない。	本機をスタンバイにして USB 機器を取り外してください。その後、電源オン にして USB 機器を接続し直してください。
		USB 機器に AC アダプタが付属している場合、AC アダプタを接続してください。
		上記の対策をしても症状が改善されない場合、お使いの USB 機器は本機に対応していません。
USB 機器を接続後、USB インジケーターが 2 回点滅を 3 回繰り返す。	本機に対応していない USB 機器を接続した。	本機を 1 度スタンバイにしてから USB 機器を接続し直してください。もし、再度同じ症状が現れた場合は、接続された USB 機器は使用できません。
	再生可能なファイルが USB 機器に入っていない。	再生可能なファイルが入っている USB 機器を接続してください（☞ P. 24、25）。
USB 機器を接続後、前面ディスプレイに「Err」と表示される。	本機に対応していない USB 機器を接続した。	本機を 1 度スタンバイにしてから USB 機器を接続し直してください。もし、再度同じ症状が現れた場合は、接続された USB 機器は使用できません。
	過電流を検出した。	

Bluetooth

症状	原因	対策
本機と接続機器がペアリングできない。	すでに他の機器と接続している。	他の *Bluetooth* 接続を切断してください。
	接続機器が A2DP に対応していない。	A2DP に対応した機器とペアリングしてください。
	Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「 0000 」以外になっている。	パスキーが「 0000 」の機器をご使用ください。
	本機と接続機器の距離が離れすぎている。	接続機器を本機に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
***Bluetooth* 接続ができない。**	本機が接続機器の *Bluetooth* 機器リストに登録されていない。	再度ペアリングを行なってください（☞ P. 10）。
	すでに他の機器と接続している。	他の *Bluetooth* 接続を切断してください。
	接続機器の *Bluetooth* 設定がオフになっている。	接続機器の *Bluetooth* 設定をオンにしてください。
	ペアリング情報が消えた。	再度ペアリングを行なってください（☞ P. 10）。 本機は最大 8 台の接続機器とペアリングできます。9 台目の接続機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。 iPhone、iPad、iPod touch の場合、本機とのペアリング履歴を削除し、再度本機とペアリングしてください。
音が出ない、または音が途切れる。	本機と接続機器との *Bluetooth* 接続が切断された。	接続し直してください（☞ P. 12）。
	本機と接続機器の距離が離れすぎている。	接続機器を本機に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
	接続機器の *Bluetooth* 設定がオフになっている。	接続機器の *Bluetooth* 設定をオンにしてください。
	接続機器が *Bluetooth* 信号を本機に送っていない。	接続機器の *Bluetooth* が正しく設定されているか確認してください。
	接続機器の出力切替が本機になっていない。	接続機器の出力切替を本機にしてください。
	接続機器の音量が小さすぎる。	接続機器の音量を上げてください。

FM 放送局の受信

症状	原因	対策
雑音が多い。	アンテナが正しく接続されていない。	アンテナが正しく接続されていることを確認してください（☞ P. 3）。または、市販の屋外アンテナを使用してください。
ステレオ放送になると雑音が多くなる。	選択している放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の放送局の受信感度が良くない。	手動チューニングで雑音を軽減するか（☞ P. 13）、市販の屋外アンテナを使用してください。
屋外アンテナを使用していても受信感度が悪い（音が歪むなど）。	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。

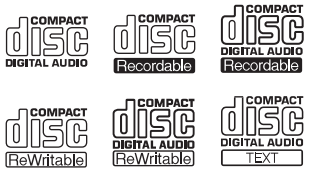
リモコンの操作

症状	原因	対策
リモコンで本機を操作できない。	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲については、「リモコンを使用する」（☞ P. 1）をご覧ください。
	本機のリモコン受光部（☞ P. 3）に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変更してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。
	リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。

ディスクおよび USB 機器について

ディスクに関するご注意

本機は下記のロゴのついた音楽 CD、CD-R/RW* を再生できます。



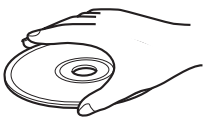
* ISO 9660 フォーマットの CD-R/RW

ディスクのロゴマークは、ディスクやディスクのジャケットに印刷されています。

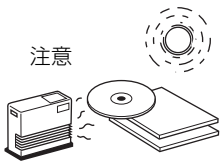
ご注意

- 本機の故障やディスクの破損の原因となりますので、上記以外のディスクは使用しないでください。
- ファイナライズされていない CD-R や CD-RW ディスクは再生できません。ファイナライズとは、各ディスクの再生対応機器で再生できるように処理することです。
- 信頼できるメーカーのディスクを使用してください。記録状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。
- 表面に傷のあるディスクは使用しないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- 8 cm ディスクは使用しないでください。

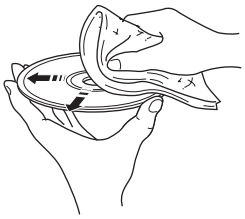
ディスクの取扱いについて



- ディスクを持つときは、ディスクの縁や中央の穴を持つようにし、表面に触れないでください。
- ディスクに鉛筆などで字を書かないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどをつけないでください。
- 傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
- ディスク以外のものを CD 挿入口に入れないでください。



- ディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。



- ディスクが汚れたときには、乾いた柔らかい布で中心から外側へふいてください。レコードクリーナーやシンナーなどは使わないでください。
- 誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーなどは使わないでください。
- ディスクは 1 枚だけ挿入してください。2 枚以上重ねて挿入すると故障の原因となり、ディスクを傷つけることにもなります。

USB 機器に関するご注意

本機で再生できる機器は、USB マスストレージクラスに対応し、データが FAT16 または FAT32 ファイルシステムで記録されているフラッシュメモリ、ポータブルオーディオプレーヤーです。

ご注意

- お使いの USB 機器によっては正常に動作しないことがあります。
- USB マスストレージクラス以外の機器（USB チャージャーや USB ハブ）、PC、カードリーダー、外付け HDD などは本機に接続できません。
- USB 機器を本機と接続して使用しているときに、USB 機器のデータを消失あるいは損傷した場合、当社は責任を負いかねますのでご了承下さい。
- すべての USB 機器に対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。
- 暗号化機能付きの USB 機器は使用できません。

MP3 および WMA ファイルについて

ご注意

- 本機は以下のファイルに対応しています。

ファイル	ビットレート (kbps)	サンプリング周波数 (kHz)
MP3	8-320**	16-48
WMA	16-320**	22.05-48

** 固定および可変ビットレートに対応しています。

- 本機が再生できるファイルおよびフォルダは以下の通りです。

	データ CD	USB
最大ファイル数	512	9999
最大フォルダ数	255	128
1 フォルダ内の最大ファイル数	511	255

- 著作権保護がされているファイルは再生できません。

主な仕様

◆ プレーヤー

CD

- メディア ..... CD、CD-R/RW
- オーディオフォーマット ..... オーディオ CD、MP3、WMA

レーザー

- タイプ ..... 半導体レーザー GaAs/GaAlAs
- 波長 ..... 790 nm
- 出力 ..... 7 mW

USB

- オーディオフォーマット ..... MP3、WMA

AUX

- 入力端子 ..... 3.5 mm ステレオミニジャック

◆ *Bluetooth*

- *Bluetooth* バージョン ..... Ver. 2.1 +EDR
- 対応プロファイル A2DP
- 対応コーデック ..... SBC、AAC、aptX®
- 無線出力 ..... *Bluetooth* Class 2
- 対応コンテンツ保護 ..... SCMS-T 方式
- 最大通信距離 ..... 10 m（障害物が無いこと）

◆ NFC（近距離無線通信）

- 対応機種 ..... NFC 対応 Android 機器 Ver. 4.1 以降

※ 機種によっては動作しない、または接続可能な距離が異なる場合があります。

◆ アンプ

- 最大出力 ..... 15 W + 15 W（6 Ω 1 kHz、10% THD）

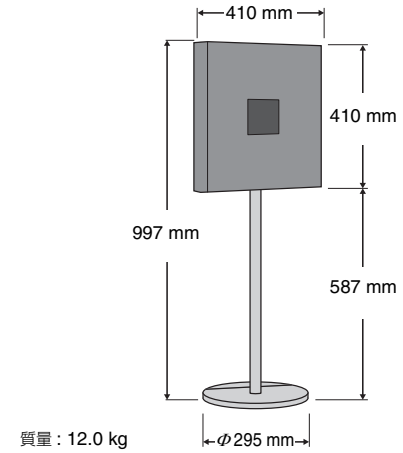
◆ チューナー

受信周波数範囲

- FM ..... 76.0 ～ 90.0 MHz

◆ 総合

- 電源電圧 / 周波数 ..... AC 100 ～ 120 V、50/60 Hz
- 消費電力 ..... 11 W
- スタンバイ時消費電力（時計表示オン、*Bluetooth* Ready） ..... 2.5 W
- エコスタンバイ時消費電力（時計表示オフ） ..... 0.4 W
- 外形寸法



仕様、および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

---

iPad、iPhone、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。
iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

Android および Google Play は、Google Inc. の商標です。

© 2013 CSR plc and its group companies.
aptX® およびロゴマークは CSR 社またはそのグループ会社の商標または各国の登録商標です。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

Bluetooth について

- *Bluetooth* とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行なうことができる技術です。
- *Bluetooth* は、*Bluetooth* SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

Bluetooth 通信の取り扱いについて

- *Bluetooth* 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。*Bluetooth* 対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべての *Bluetooth* 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

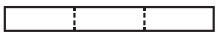
対応コーデックについて

- 本機は aptX® コーデックに対応していますが、接続する機器によっては、ワンセグなどの音声が再生できない場合があります。その場合は接続機器の aptX 設定をオフにして、接続し直してください。

本機の無線方式について



「2.4」.....2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」.....変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）
「1」 ..... 想定干渉距離が 10 m 以内



.....全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

無線に関するご注意

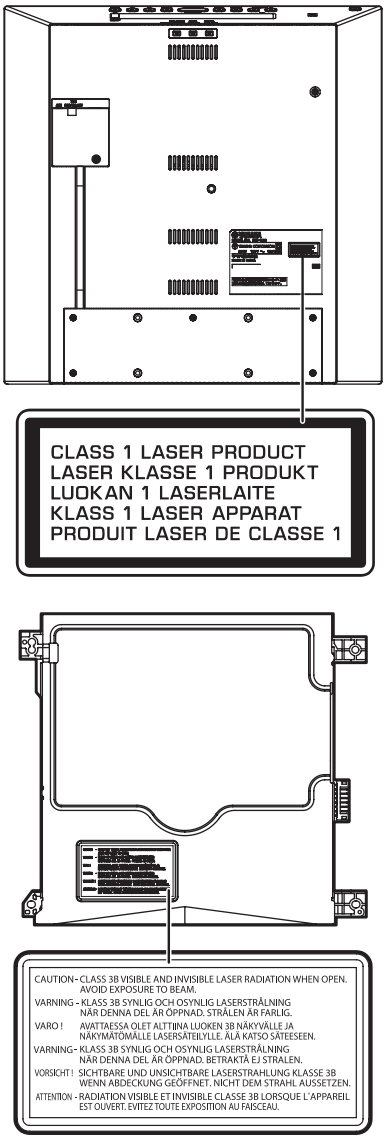
この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

ご注意

この取扱説明書に記載されている以外の調節や操作は、有害な放射を引き起こす可能性があります。

製品ラベルは本体の背面に掲示してあります。



お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



PRINTED WITH SOY INK™

© 2014 Yamaha Corporation

ヤマハ株式会社
Printed in China ZN79980